

豊岡市教育研修センターだより

豊岡市教育委員会 R7(2025).2.21

No.19

豊岡市のホームページにもアップしています。

豊岡市 HP→上段「暮らし」→右下「教育・学校」→「教育研修センター」へ



令和6年度学力向上シンポジウム②～学力向上とは～

講演 子どもたちの生きる未来の姿から「学力」向上を考える ※記載内容は一部です

文部科学省初等中等教育局教育課程課 学校教育官 岩岡 寛人 氏

テーマ2 「資質・能力を育てる授業づくり」

- 1 学習指導要領がめざす資質・能力観とは…各教科固有の様々な「見方・考え方」で思考・判断・表現
- 2 「主体的・対話的で深い学び」の実現…資質・能力の育成をめざしていくためには、「長いスパン」で授業づくりをしていくことが大事。1時間の授業の中に主体的な学びや対話的な学び、深い学びといった観点をすべて入れることは到底無理。「まとまり」で授業をつくる。
- 3 「学習指導要領」の中身は？教える内容が多く、工夫の余地がない？
➡結論：多くない。知識注入の観点ではない。教科書の内容をすべて指導する必要はない。
- 4 授業をどう作るか？学習指導要領から作るか？教科書から作るか？
➡①学習指導要領(資質・能力)：どういう力をつけようかな？
②単元構想(子どもたちに力をつけるための計画)：どういう主題、構想、評価でやろうかな？
③授業：教科書やその他の教材をどう使おうかな？

テーマ3 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」

- 1 全ての子どもに、「資質・能力」の育成を保障していく。
(個別最適・協働)(主体的・対話的で深い学び)…知識の量より質へ。受験が終わっても残り続ける力を育てる
- 2 「教室の中の多様性」…「これまで通りの授業」で誰一人取り残されないは可能か？
例：中学校40人学級の多様性…特異な才能のある子ども 0.9 人(2.3%)
発達障害の可能性のある子ども 2.2 人(5.6%)
家にある本が少なく学力の低い傾向がみられる子ども 13.9 人(34.8%)
日本語を家であまり話さない子ども 1.3 人(3.2%)
不登校傾向 4.1 人(10.2%)
不登校 2.4 人(6.0%)
【出典】通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果(文部科学省)
- 3 非同期のコミュニケーションが可能にする豊かな学び※個別最適を「電話」で実現しようとしていないか？
×「電話」…同期型コミュニケーション。同じ情報を同じタイミングで。
○「クラウド」…非同期型コミュニケーション。違う情報を、それぞれのタイミングで。
例：Google classroom、NHK for school、インターネットなど。一人一台端末の活用。
- 4 みんな一緒に手放し、少しずつ子どもの自律的学びを生み出すことが大切。
「自律的な学びを生み出す」ことは「子どもに全て委ねる」ことではない。
個別最適・協働的な学びの実現は、より高度な教員の指導制が必要。
(教科本来の魅力は何か？それを引き出す「ホンモノ」の教材は何か？子どもが夢中で学ぶ課題はどのようなものか？どのようなタイミングでどんな学習方法の指導が有効か？「深い学び」に向かう発問は？)
- 5 「子ども主語」の学びや授業を追求するために、それを支援・指導するための「教師主語」の授業研究を大切にする
「資質・能力」を育てることに焦点化された単元づくりがされているか。単元の計画が子どもたちにしっかり開示されているか。単元で身に付ける力を「評価規準」でしっかり示せているか。